



大分西部地域

まちづくりビジョン



大分西部地域ビジョン会議

平成30年7月

— 目次 —

はじめに	P3
第1章 地域の特性	
1 地理的特性	P4
2 地域の歩み、歴史・文化的特性	P4-6
第2章 地域の現状及び市の施策	
1 土地利用の状況	P7
2 地域資源	P8-10
3 地域内の公共施設	P11
4 市指定避難所、津波避難ビル	P12-13
5 市民との協働によるまちづくり	P14-15
6 市の主な施策	P16-18
第3章 人口推移と将来推計	
1 大分市の人口推移と将来推計	P19-20
2 大分西部地域の人口推移と将来推計	P20
3 大分市の人口ビジョン	P21
第4章 地域の分析	
1 SWOT分析による地域の検証	P22-23
2 SWOT分析による地域の整理図(地図)	P24
第5章 地域のあるべき姿(将来像)	
1 地域の将来に向けた魅力・課題	P25
2 大分西部地域の将来像	P26
第6章 将来像の実現に向けた取組	
1 これからのまちづくりに向けた市長への提言	P27
2 提言に基づく提案事業の一覧	P28-29
3 提案事業の役割分担	P30-33
4 提案事業の整理図(地図)	P34
<hr/>	
資料編	
1 策定経過	P36
2 大分西部地域ビジョン会議委員及び顧問、事務局名簿	P37-38
3 大分市地域ビジョン会議設置要綱	P39-41

はじめに

わが国では、急速に少子高齢化が進み、本格的な人口減少社会を迎える中、大分市においても、今後、人口が減少に転じることが予測され、地域の活力維持や地域コミュニティの希薄化など、さまざまな課題が懸念されています。これらの課題解決のためには、行政が地域の実情や意向等を的確に把握し、市政への反映に努めることが必要と考えております。

このような状況を受け、地域の活力維持・増進を図ることを目的に、市内13地域において、各地域の代表者で構成する「地域ビジョン会議」を設置し、それぞれの地域の現状と課題などを議論し、地域のまちづくりを進めるうえでの将来像として「地域まちづくりビジョン」を策定しました。

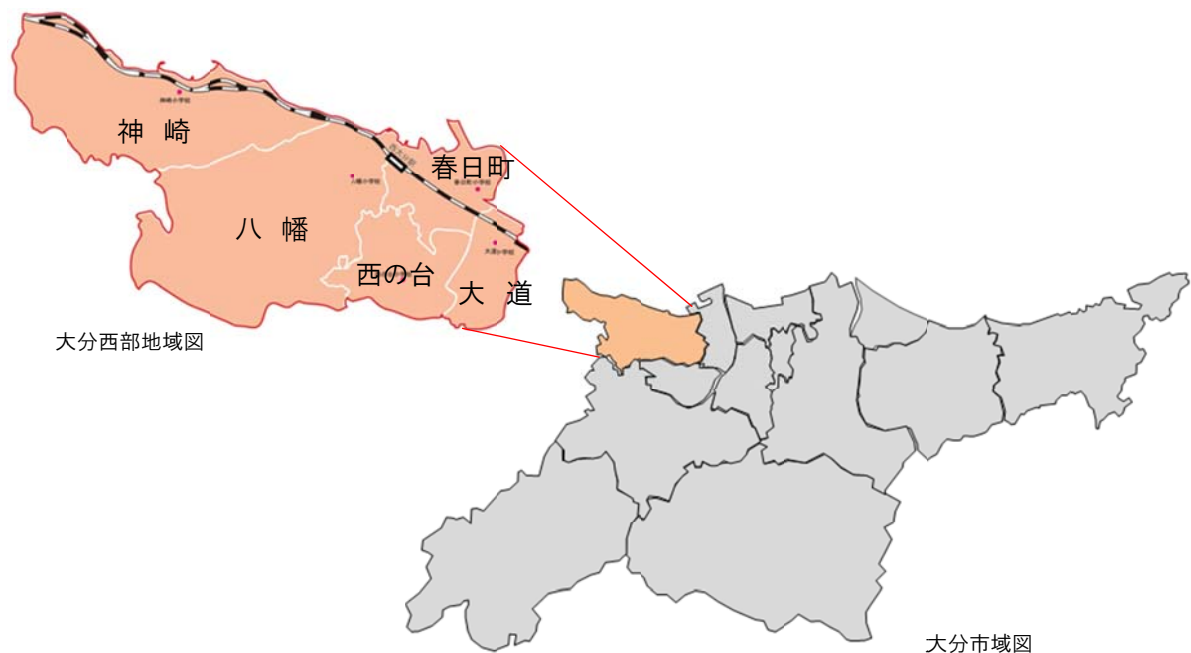
本ビジョンでは、大分西部地域ビジョン会議で取りまとめました「大分西部地域まちづくりビジョン」について、大分市長に提言します。

市内13地域における地域ビジョン会議

大分中央地域	大分東部地域	大分西部地域
大分南部地域	南大分地域	鶴崎地域
大南地域	植田地域	大在地域
坂ノ市地域	佐賀関地域	野津原地域
明野地域		

大分西部地域の対象校区

大分西部地域まちづくりビジョンは、春日町、大道、西の台、八幡、神崎の5小学校区を対象としています。



第1章 地域の特性

第1章 地域の特性

1 地理的特性

大分西部地域は、市内中心部の西側に位置し、別府湾に面しています。そして、国内有数の観光地である別府市や由布市と近接していることから、年間を通じて観光客が多く、大分市の玄関口としての役割を担っています。西側には、本市の象徴でもある高崎山が屹立し、緑豊かな自然に恵まれています。また、住吉川や祓川などが南北を貫流し別府湾に注いでいます。

このように、海、山、川がすべてそろい、豊かな自然と便利な生活環境が共存する優れた都市環境を有しています。

2 地域の歩み、歴史・文化的特性

(1)地域の歩み

本地域は、大分港発祥の地として、古くから港町の歴史を刻んできました。現在の西大分港付近は、今から約450年前、時の領主大友宗麟がポルトガルや明との交易を行った由緒ある土地であり、当時から国内有数の貿易港でした。大友氏滅亡後は一時、貿易が衰退するも明治末期から大正初期にかけて近代港湾としての整備が始まり、これを契機として急速に阪神地域との海上交通が盛んになりました。また、平成4年には大分自動車道(大分IC)が開通し、東九州における海、陸の接点として重要な地位を占めるに至りました。

一方、丘陵地では昭和50年頃から平成初期にかけて、大型住宅団地が次々と開発され、地域内の人口は大幅に増加しました。また、市立の小学校、中学校に加え、大分大学教育学部附属小学校・中学校や県立図書館、市営駄原総合運動公園など、教育・文化・スポーツのあらゆる施設が集約している地域です。



(2)歴史・文化的特性

本地域には、柞原八幡宮や春日神社など由緒ある神社仏閣が多く存在しています。また、大友氏の歴史を伝える石碑や城跡などがあり、当時の歴史・文化を感じることができます。



■柞原八幡宮【国指定重要文化財】

「豊後国一の宮」の一つで、平安初期の827(天長4)年を創建の起源とし、古来より宇佐神宮の分霊地として国司・武家などから崇敬された由緒ある神社です。1866(慶応2)年再建の南大門には、古今の聖人や竜、花、鳥などが刻まれ、別名「日暮しの門」と呼ばれています。

■南蛮貿易場跡 大友宗麟像

(神宮寺浦公園内)

かつては浅瀬の波に洗われる美しい海浜で、天文年間(1532~1555)、ポルトガルや明との貿易を行った「大友宗麟」は、この浜辺を交易場として利用していたといわれています。多くの外国船が来航し、神宮寺浦を含む別府湾は南蛮貿易の表玄関でした。



■古宮古墳【国指定史跡】

7世紀中頃から8世紀初頭に築造された南北約12.5m、東西約12.0mの方墳です。合板凝灰岩の巨石を切り抜いた構築で、入口部分は凝灰岩の切石を用いるなど丁寧^{おおきだのえさか}に造られています。被葬者は、壬申の乱で活躍した大分君恵尺が有力視されています。

第1章 地域の特徴



■春日神社

貞観2年(860年)に国司・藤原朝臣世数^{ふじわらあそんのよかず}が、奈良の春日大社の四所大神をお迎えしたとされる、県内有数の古社です。市内中心部に位置する境内は約8000坪あり、参道左右の大クスに代表される緑あふれる憩いの杜になっています。



■王子神社(鳥居)【市指定有形文化財】

王子神社に建立されている^{ちゅうぞう}鑄造の鉄製鳥居で、明神鳥居の様式です。作成年は寛政8年(1796)2月穀日^{こくじつ}(めでたいの日の意)、府内藩主第6代松平近儔^{ちかざと}が建立したことが、鳥居の柱前面に陽刻されています。



■高崎城跡

築城された年代は定かではありませんが、南北朝～室町時代に活躍した大友氏の8代当主・氏時の頃には本格的な城郭が出来上がっていたといわれています。難攻不落の城として知られ、歴代の当主が居城として利用しましたが、1593(文禄2)年、大友氏の改易後に廃城となりました。



■福田平八郎生家跡

大分を代表する日本画家・福田平八郎(1892～1974)の生家跡。大分市名誉市民第1号でもあります。「雪」「鯛」で注目をあび、「漣(さざなみ)」で日本画に新しい手法をもたらしました。生家跡は現在小さな憩いの公園となっており、「鯉」「筍」のレプリカが飾られています。



■別大電車

かつて大分駅から新川、かんたん、東別府を経て別府亀川まで路面電車が走っていました。明治33年に九州初の路面電車として開設され、70余年にわたり多くの人に利用されましたが、バスや乗用車の発達・普及に伴い、昭和47年に廃止されました。

第2章 地域の現状及び市の施策

1 土地利用の状況

本地域では、各年代において大規模な土地区画整理事業*が行われ、現在のまちなみに変貌を遂げています。その結果、都市計画道路は国道10号として整備され、大分市と別府市を結ぶ産業道路となるとともに、沿道は商業地域としての利用が進み、住環境の整備された住みよい市街地に生まれ変わりました。

また、地域の東側の丘陵地は、昭和51年の「スカイタウン高崎」の開発を皮切りに、多くの大型住宅団地が建設されました。一方、高崎山を中心とする西側は瀬戸内海国立公園に指定されていることから、多くの自然が残されています。



*土地区画整理事業について

・駄原土地区画整理事業(昭和32～50年度)

地域を東西に横断する都市計画道路の生石下郡線(国道10号)幅員30メートルを中心とした道路・公園等の公共施設が整備され、駄原地区における宅地の利用増進が図られました。

・西大分土地区画整理事業(昭和44～平成2年度)

大分臨海工業地帯の背後地整備事業の一環として、都市計画道路の生石下郡線(国道10号)の新設や臨海産業道路の拡幅をはじめとする道路・公園等の公共施設の整備改善が行われ、合理的かつ統制のある土地利用が図られました。

・大分駅南土地区画整理事業(平成8～33年度) 一部

大分駅周辺総合整備事業として総合的なまちづくりが進められ、旧国鉄清算事業団用地や鉄道の高架化に伴うJR操車場跡地を活用することによる駅前広場や、シンボルロード等の公共施設の整備と併せて、駅周辺街区の有効高度利用と周辺部の都市型住宅地の整備が行われました。

第2章 地域の現状及び市の施策

2 地域資源

本地域には、高崎山自然動物園、大分マリンパレス水族館「うみたまご」をはじめとする様々な観光・レクリエーション施設や、春日神社夏祭りや浜の市など地域に伝わる伝統行事、豊かな自然に恵まれた農産物など多くの地域資源があります。

(1) 観光・レクリエーション施設



■高崎山自然動物園

国内では最大の群を成す野生のニホンザル生息地。約1,230頭生息し、その生態を身近に観察することができます。また、野生ザルの生息地として、天然記念物に指定されています。

■大分マリンパレス水族館「うみたまご」

「動物となかよくなる水族館」をテーマとした、開放感あふれる海と一体化したダイナミックな水族館。また、動物を間近に見ることができる新感覚のビーチ施設「あそびーち」が平成27年にオープンしました。



■田ノ浦ビーチ

別大国道に面した自然豊かな海浜公園。特に海水浴シーズンは、市内外から訪れた多くの人で賑わいます。また、平成28年に海岸中央部の人工島が「恋人の聖地」に認定されるなど注目を集めています。

■みなとオアシスかんたん港園

水辺に親しむことのできる親水空間であり、市民、県民が「憩い・賑わい・癒し」のオアシスとして期待されるウォーターフロント。近辺には結婚式場やレストラン、カフェなどが並びます。



■高崎山森林セラピー

高崎山は森林セラピーロードの一つに認定されています。森林の中に身を置くことで、健康維持・増進、疾病の予防等が図られます。また、高崎山の山頂部分から田ノ浦ビーチを望むことができます。



(2)伝統行事

■春日神社夏祭り

神社最大の祭典で、氏子町内約10kmの行程を氏子青年から選ばれた役員の指示の下、総勢約600人の神輿かき、高張提灯によって巡行が行われます。金色に輝く神輿の勇壮な宮入は見ごたえがあります。

開催期間：7月18日～19日



■柞原八幡宮仲秋祭「浜の市」

柞原八幡宮が生石の浜の放生会に神幸する仲秋祭「浜の市」。江戸時代には、西日本の三大市に数えられ、府内城下町の最大のイベントでした。藩主の座布団をかたどったとされる「しきし餅」が売られています。

開催期間：9月14日～20日



(3) 農産物

■ピワ

5月末～7月初旬にかけて収穫される果物で、田ノ浦地区では、古くから特産品として栽培されています。

現在、約40戸のピワ農家が栽培しており、爽やかな甘味が初夏を感じられる果物として親しまれています。



■ミカン

八幡地区では、「温州ミカン」、「ポンカン」、「不知火」、「甘夏」など多くの品種が栽培されています。

現在、約70戸のミカン農家が栽培しており、豊かな自然環境のもと、育てられたミカンは上質と評判です。



■イチジク

田ノ浦地区では、8月～10月にかけて収穫される「ホウライシ」という品種のイチジクが栽培されています。

現在、約10戸の農家が栽培しており、小ぶりながらもしっとりとした甘味のある果実は、健康食としても注目されています。



■スモモ

6月～7月に出荷される甘酸っぱくて果汁溢れる果物です。

現在、約10戸の農家が約9品種のスモモを八幡地区で栽培しています。モモの栽培にも新たに取り組んでおり、魅力ある大分市の産物づくりを目指しています。



第2章 地域の現状及び市の施策

3 地域内の公共施設

本地域には、大分西部公民館を中心に、市立及び国立の小学校、中学校が立地しているほか、県立図書館や市営駄原総合運動公園など、教育・文化・スポーツのあらゆる施設が集積しています。



公立・国立小学校	公立・国立中学校	公立保育所	公立・国立幼稚園
春日町小学校	王子中学校	生石保育所	春日町幼稚園
大道小学校	大分西中学校	浜町保育所	大分大学教育学部 附属幼稚園
西の台小学校	大分大学教育学部 附属中学校	新春日町保育所	特別支援及び聾学校 大分大学附属 特別支援学校 県立聾学校
八幡小学校			
神崎小学校			
大分大学教育学部 附属小学校			

県立高校	地区公民館	図書館	スポーツ施設
大分西高等学校	大分西部公民館	県立図書館	市営駄原総合運動公園
		大分西部公民館 図書室	西部スポーツ交流ひろば
			T-wave(田ノ浦)

第2章 地域の現状及び市の施策

4 市指定避難所、津波避難ビル

本地域には、市指定避難所として小学校や中学校など11カ所指定されているほか、津波避難ビルが33カ所指定されています。



(1) 市指定避難所

※各災害における市指定避難所については○で表示

校区	施設名	地震	洪水	がけ崩れ等	津波	避難所の 海拔
春日	春日町小学校	○	○	○	○	5m
	王子中学校	○	○	○	○	5m
	生石保育所	○	○	○	○	5m
	大分西部公民館	○	○	○	○	7m
大道	大道小学校	○	○	○	○	5m
	県立聾学校	○	○	○	○	8m
西の台	西の台小学校	○	○	○	○	64m
	大分西中学校	○	○	○	○	94m
	大分西高等学校	○	○	○	○	7m
八幡	八幡小学校	○			○	7m
神崎	神崎小学校	○	○		○	36m

(2)津波避難ビル

校 区	名 称	所在地(住所)	階 数	海拔(TP.m)
春 日	コーポスズキ	勢家町一丁目4番35号	4階	3.6
	官報ビル	中春日町5番22号	6階	4.9
	県営生石住宅	駄原1323番地の1	1A-1 6	6.9
	西の丸ビル	生石三丁目1番29号	7階	2.4
	グリーンヒル生石港	生石港町二丁目12番15号	14階	3.2
	HASドゥペール生石港	生石港町二丁目5番14号	13階	2.5
	グランドオーク王子	王子山の手町5番1号	7階	6.9
	ビューハイム勢家	勢家町二丁目1番23号	3階	3.5
	レジオン中春日	中春日町12番27号	15階	5.1
	グリーンヒル西春日	西春日町8番23号	8階	4.3
	西大分ビル	生石二丁目1番27号	4階	3.8
	春日町小学校	西春日町1番48号	3階	5.5
	第2丸大ビル	浜の市一丁目3番6号	4階	4.3
	アーバンブレイム西春日	西春日町1番4号	9階	5
	王子中学校	南春日 6-1	3階	5.4
大 道	フレッシュガーデンK	東大道一丁目8番8号	6階	5.8
	ステラコート	東大道一丁目10番27号	5階	5.6
	明日香大分駅南	東大道一丁目8番34号	11階	5.6
	フローラハイライズ駅南	東大道一丁目8番20号	7階	5.6
	大道小学校	大道町二丁目9番57号	4階	5.1
	ジュメル大道	大道町三丁目1番24号	10階	5.7
	セゾン駅南	大道町二丁目7番12号	5階	6.1
	ドゥペールワコー大道	大道町三丁目2番7号	12階	6.5
	マンションおの	西大道四丁目3番62号	4階	11.6
	サンコーポ高見	西大道二丁目5番20号	4階	10.7
西の台	県営上春日住宅	駄原2881番地の35	4階	8.6
	西の台小学校	にじが丘三丁目1717番地の1	3階	66.4
	大分西中学校	高崎二丁目20番1号	3階	93.8
	スペリオル S・2	志手3組の3	3階	9
	オレンジハイム	志手3組の2	3階	9.1
	ハイムグロワール	志手1組の2の1	3階	12.3
八 幡	市営田ノ浦住宅	田ノ浦2組の2	5階	10.6
	八幡小学校	大字生石82番地の1	南3階	7.2

※神崎校区は指定箇所なし。

※海拔(TP.m)とは、東京湾平均海面(Tokyo Peil)を意味し、全国の標高の基準となる海水面の高さである。

第2章 地域の現状及び市の施策

5 市民との協働によるまちづくり

本地域では、「地域のことは、地域に住む住民の手で」という住民主体のまちづくりの精神に基づき、多くの市民活動団体が、住民自治の担い手として、環境や福祉、教育、防災、青少年健全育成などの活動に取り組んでいます。

(1) 地域まちづくり活性化事業

地域と行政が連携・協力し、地域課題の解決や活性化、新たな魅力の創出等につながる事業を地域主体により取り組むことで、自律性の高い特色ある地域づくりを進めています。

本地域では、「タやけ小やけのまちづくり」をテーマに、各校区が環境美化活動や見守り活動、交流会など様々な活動を行っています。



取組事例：西部地区史跡紹介マップ

地域まちづくり活性化事業として、5校区の歴史スポットを紹介するマップを作成しました。地域に埋もれている身近な史跡や偉人にスポットを当てた内容になっています。

作成には地域の歴史に詳しい住民が協力し、史料収集や聞き取り調査、写真撮影等を行いました。

(2) 「西部地区総合安全対策推進協議会」による安全で住みよい街づくり

各校区の自治委員、民生委員、青少協、小・中学校などで構成される本協議会は、平成14年に設立され、その活動は多岐にわたります。

「安全で住みよい街づくり」推進大会を毎年、各校区の輪番で開催しているほか、下校時刻に合わせた声掛けや見守り活動などに取り組んでいます。平成26年度には、安全・安心なまちづくり関係功労団体として内閣総理大臣を受賞しました。



(3)「総合型地域スポーツクラブ」による多世代交流

本地域には、NPO法人おおみちふれあいクラブ(大道校区)と西の台あいあい倶楽部(西の台校区)の2クラブが活動を行っています。

子どもから高齢者まで幅広い年代の人が地域の小・中学校の体育館や校区公民館などに集まり、身近な地域で気軽にスポーツ・レクリエーションを楽しみながら、健康維持・増進や多世代交流につなげています。



(4)「住吉川浄化対策推進協議会」による一斉清掃

住吉川浄化対策推進協議会は、昭和63年に設立され、「住吉川を浄化し、やすらぎとおいしいのある水辺空間づくり」を目的に、流域周辺の地域が一体となった取組を行っています。

特に、毎年、実施している一斉清掃には地域住民や企業など、多くの人に参加。また、ウォーキング大会やホテルの鑑賞会、放流会を開催するなど、地域の川としても親しまれています。

平成29年度には、環境省水・大気環境局よりその活動が評価され、「水・土壌環境保全活動功労者賞」を受賞しました。

(5)「大分ライフセービングクラブパトロール隊」による防犯活動

田ノ浦ビーチを拠点に、別府湾沿岸部において安全・安心・快適に利用できる海岸づくりを目指して活動しています。また、児童の下校時の見守り等、地域に密着したパトロール活動を行っており、平成29年にはその功績が認められ、大分県警より地域の防犯に貢献したとして表彰を受けました。



第2章 地域の現状及び市の施策

6 市の主な施策

本地域は、大分市総合計画をはじめ、大分都市計画マスタープランや大分市観光戦略プラン等の各種計画において、自然景観の保全を図りつつ、観光・レクリエーション拠点の形成などを推進する地域として位置付けられています。

【大分西部地域に関連のある市の各計画】

計 画 名	計 画 期 間	内 容 ※抜粋
大分市総合計画	H28～H36 年度	基本的な政策：「防災安全の確保」、「産業の振興」など
大分市都市計画 マスタープラン	H22～H42 年	観光資源を利用した憩い空間の形成、湾岸交流拠点として賑わいの空間を創出など
大分市観光戦略プラン	H29～H33 年	高崎山を中心とした西大分エリアへのさらなる誘客と市内全域への周遊促進
大分市農林水産業 振興計画	H29～H33 年度	農林水産物の6次産業化・ブランド化、地産地消の取組強化等の推進など
大分市景観計画、 景観形成ガイドライン	H19 施行	西大分ウォーターフロントを核として、魅力的な賑わい拠点

(1) 高崎山エリア・西大分エリアの魅力向上～西大分エリア魅力創造推進プロジェクト～

西部海岸地区は、高崎山自然動物園と水族館「うみたまご」など本市を代表する観光地に加え、別大国道海岸沿いの景観が美しい田ノ浦ビーチやサイクリングロードなど大分の魅力が凝縮し、国内有数の観光地である別府市とも近接する観光地としてのポテンシャルが高いエリアです。

こうしたことから、大分市観光戦略プランでは、同地区の観光資源を見直し、インバウンド対策も含めた受入態勢及び二次交通の充実、観光客の滞在時間を延ばすための手法等を検討し、誘客促進に取り組むとともに、同地区に呼び込んだ観光客を市内中心部及び市内各地の観光スポットへ周遊させる仕組みづくりを行うこととしています。



(2)西部海岸地区の魅力創造について

西部海岸地区の魅力創造に向けて、「西部海岸地区にある既存の観光資源等と連携した、憩い・賑わいの空間の創出」や「別大国道を利用する道路利用者や地域住民のための休憩施設・情報発信施設の整備」、「西部海岸地区外から活力を呼び込むための新たな魅力創造に資する拠点施設の形成」を目的に、大分市西部海岸地区魅力創造拠点施設形成検討協議会を平成29年9月に設置し、基本構想などを検討することとしています。



(3)ラグビーワールドカップ2019を見据えた「市営駄原総合運動公園」の整備

現在、ラグビーワールドカップ2019の開催に向けて、球技場・スタンド等の改修工事を行っています。今後、市民の健康維持・増進や各種イベント等にも活用される予定です。



完成イメージ図

【主な整備内容】

芝生の改修、観戦スタンドの改築、
ウォーキング・ランニングコースの設置、
防犯照明の改修、防球ネットの新設、
グラウンド夜間照明の新設、
駐車場の整備、管理棟の改築、
防犯照明の改修など

(4)桜の名所として「下白木・田ノ浦海岸線 桜並木風景街道」を整備

大分市制誕生100年記念事業として、別大国道の6車線化に合わせ、下白木から田ノ浦までの旧国道(1.6kmの間)に、桜の名所となるよう「下白木・田ノ浦海岸線桜並木風景街道」を平成23年から24年にかけて整備しました。

4月上旬から中旬にかけて、約300本のウミネコザクラが見頃となります。



(5)観光施設の魅力をつなぐ「自動運転バス」の実証運行



西部海岸地区において、平成29年8月にエリア内の観光施設間の新たな周遊ルートの創造に向けた自動運転バスの実証運行を実施しました。

今後、実証結果を検証し、観光客や市民の新たな交通手段として自動運転バスの本格導入を検討することとしています。

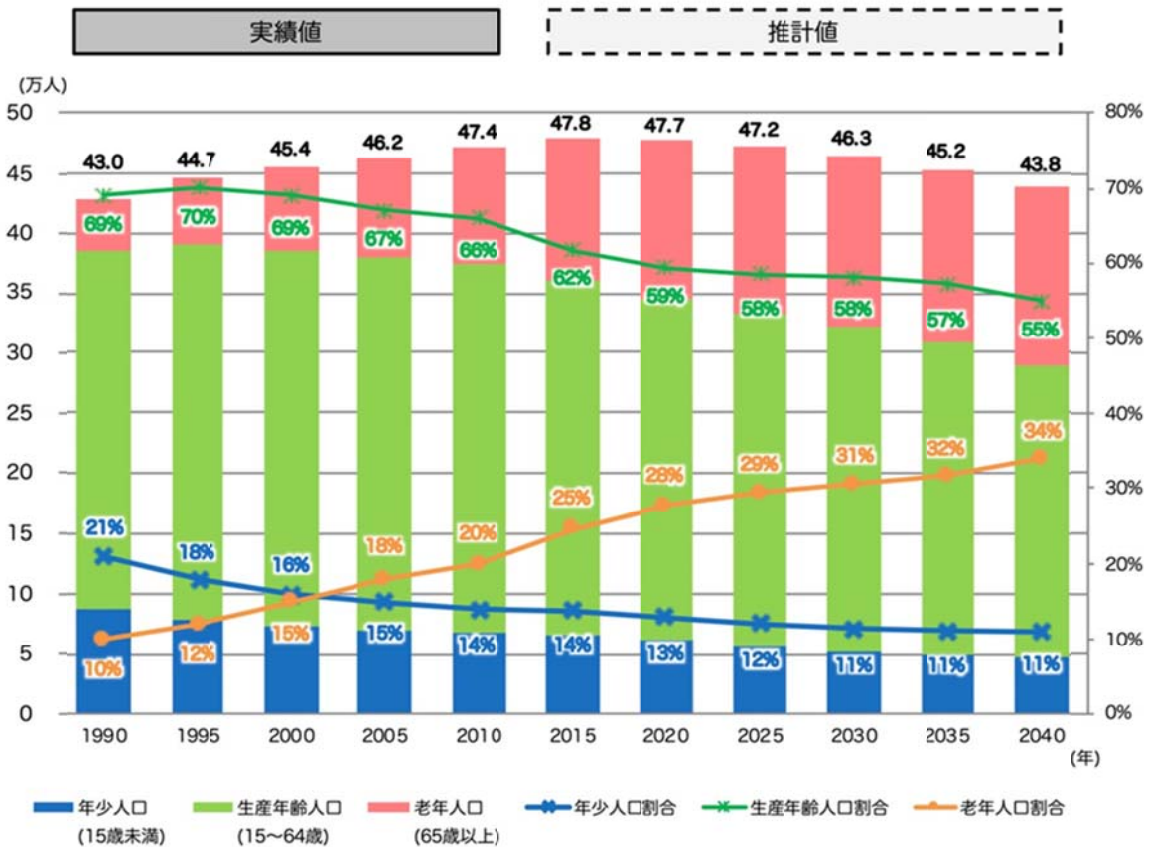
第3章 人口推移と将来推計

1 大分市の人口推移と将来推計

総人口・年齢3区分別人口の推計

2010(平成22)年国勢調査を基本に、2013(平成25)年3月に国立社会保障・人口問題研究所(以下、社人研)より発表された数値を用い、将来人口を推計しました。

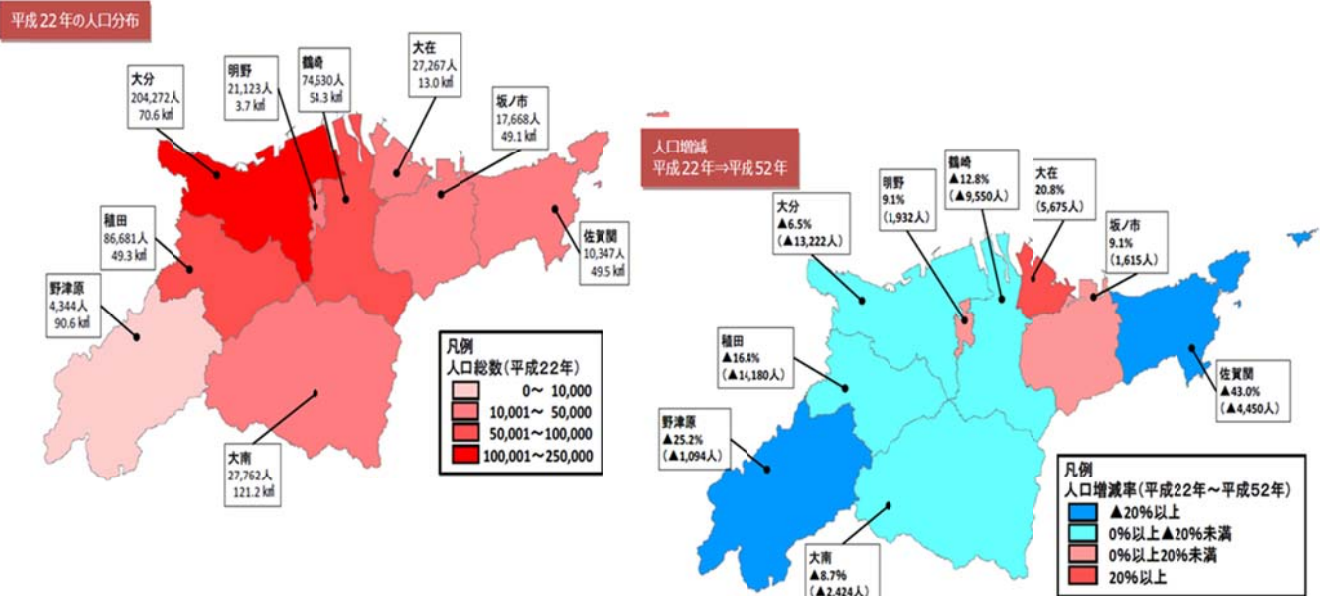
この推計によると、このままの状況で人口が推移していけば、2010(平成22)年から40(平成52)年までの30年間で、本市の総人口は約3.6万人、生産年齢人口(15歳～64歳)は約6.5万人減少すると予測されています。一方、老年人口(65歳以上)は約5.3万人増加し、高齢化率は34%に達すると予測されています。



※2010(平成22)年まで総務省統計局「国勢調査」(2015(平成27)年以降は国立社会保障・人口問題研究所推計)
2000(平成12)年以前の人口は、旧佐賀関町、旧野津原町の人口を含む

第3章 人口推移と将来推計

＜地域別の人口推計＞



※平成52年総人口は国立社会保障・人口問題研究所推計。地域別人口については社会増減の補正を行い推計。

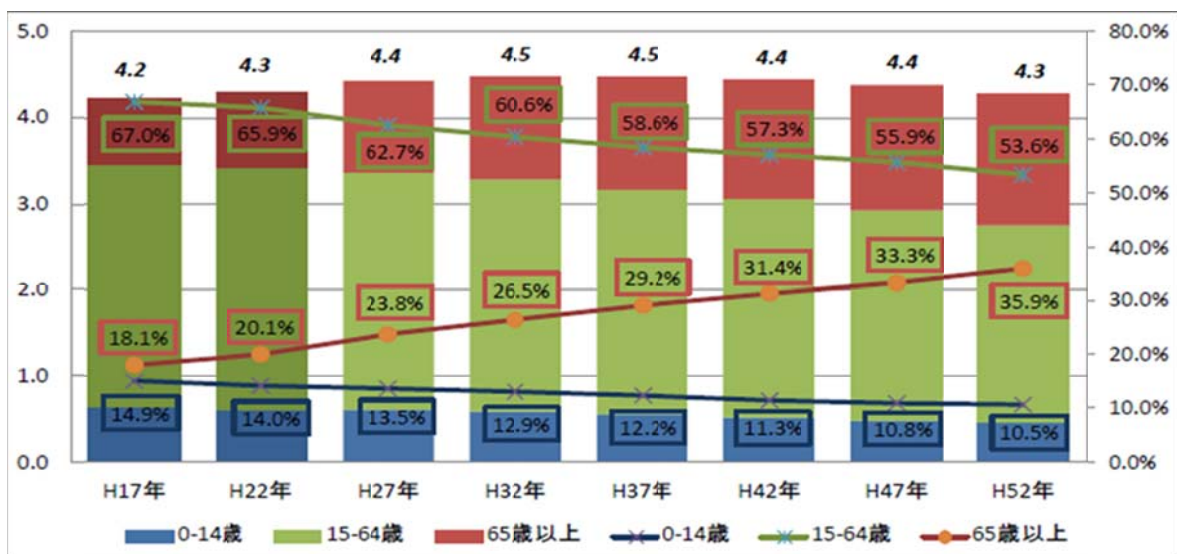
2 大分西部地域の人口推移と将来推計

人口推移と将来推計において、2010(平成22)年の大分西部地域の人口は、市の総人口の約9.1%を占め、4.3万人です。将来推計においては、一時増加傾向にあるものの、2025(平成37)年をピークに、緩やかに減少する見込みとなっています。

大分西部地域 人口:45,362人 世帯数:21,383世帯		
春日町 12,864人/6,230世帯	大道 13,168人/7,038世帯	八幡 4,262人/1,966世帯
神崎 616人/315世帯	西の台 14,452人/5,834世帯	(2018年3月末日現在)

【大分西部地域の人口推移と将来推計】

※H17～22年は実績値、H27～52年は推計値



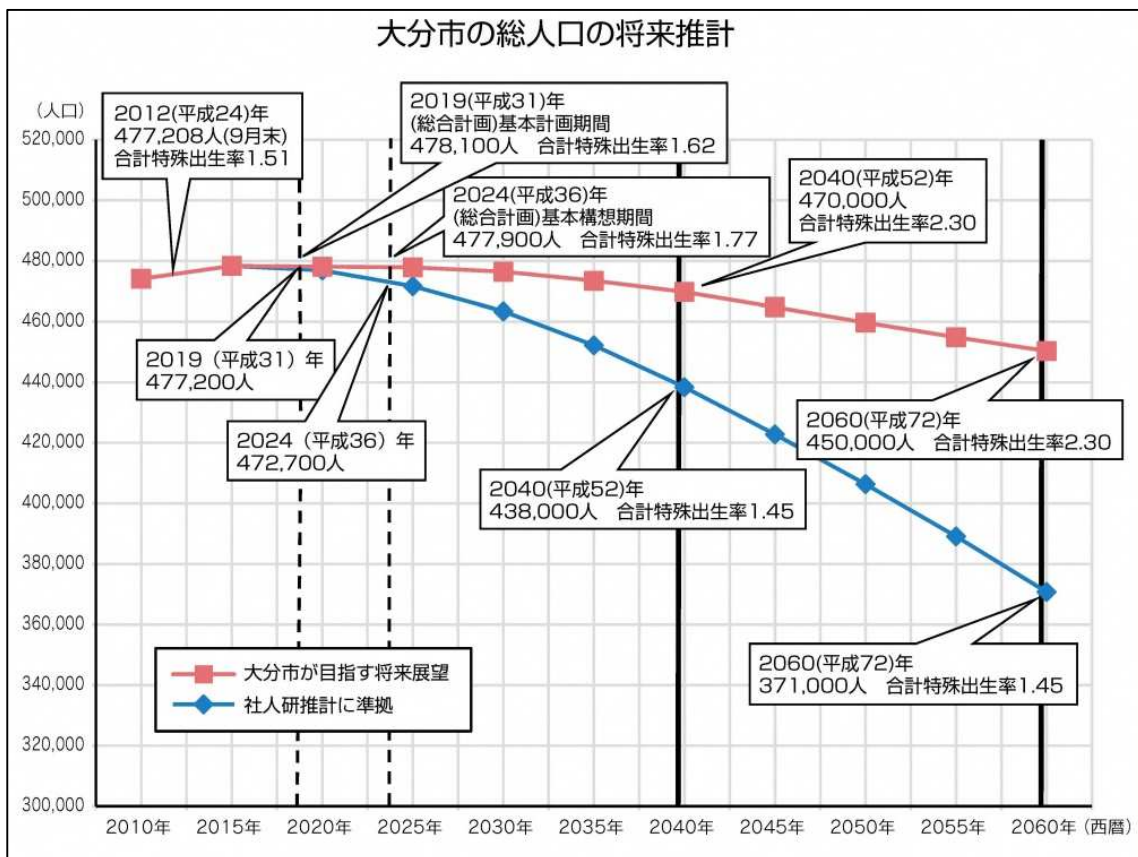
3 大分市の人口ビジョン

本市では、国や大分県の将来展望を勘案する中、県都大分市としての責任を果たすため、自然増については、結婚・妊娠・出産・子育ての希望の実現に向けた取組のさらなる充実を図ることにより、2030(平成42)年までに合計特殊出生率を2.0程度まで高め、2040(平成52)年には2.3程度まで高めることとします。

また、社会増については、今後も東京圏を中心とした大都市への人口流出が懸念されることから、大分県全体を鑑みるなか、大分県外から、特に東京圏を中心とした大都市からの転入者を増やすことを目指していきます。

このように自然増対策と社会増対策に取り組むことにより、人口減少に歯止めがかかり、2060(平成72)年の本市の人口は、45.0万人程度としています。

大分市が目指す将来展望 2060(平成72)年 人口45万人程度



第4章 地域の分析

1 SWOT分析による地域の検証

本地域の魅力や課題を検証するにあたり、外部環境や内部環境を強み、弱み、機会、脅威の4つのカテゴリーで要因分析する。

【大分西部地域のSWOT分析(強み・機会)】

強み Strength	
<p>①充実した地域での絆づくりや地域間交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5校区の自治委員・自治会の連携が強い。 ・竹明り(大道校区)が8年目を迎えた。 ・浜の市に各地区から参加しており、絆が保たれている。 ・学校と地域の結びつきが強い。 ・西部地区総合安全対策協議会が定着している。 ・あいさつ、パトロール等の見守り活動が活発である。 	<p>③恵まれた観光資源</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うみたまご、田ノ浦ビーチ(恋人の聖地)、高崎山等の観光資源が豊富である。 ・観光産業開発の将来性がある。 ・柞原八幡宮、大友宗麟(南蛮貿易)、福田平八郎生家跡などの歴史資源もある。
<p>②利便性の高い立地特性や豊かな自然に恵まれた住環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大分駅周辺整備の完成により交通体系、住環境の利便性が向上した。 ・温暖な瀬戸内気候に恵まれ、海・山の幸が豊富である。 ・海、陸の玄関口(西大分港、大分IC)がある。 ・別大国道があり、交通の便が良好である。 	<p>④充実した教育・文化施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文教地区として教育・文化施設が多い。 ・県立図書館、TV局等がある。 ・大分IC、県立図書館、駄原総合運動公園等が立地し、交通面や施設が充実している。
	<p>⑤生活基盤を支える特産品</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地産(ビワ、イチジク)が特産品である。 ・果物、ミカン、野菜等の生産地である。
機会 Opportunity	
<p>①ベイエリアや駅周辺開発等の必要性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JR西大分駅周辺の開発による観光地づくり。 ・祓川、住吉川等の河川の整備。 ・高齢者の生きがいを感じる基地をつくる。 ・子どもが集まれる児童館の建設。 	<p>④観光資源を生かしたにぎわいの創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅の開設や地元物産市場の開催。 ・西大分、田ノ浦、うみたまご・高崎山をつなぐ観光振興。
<p>②多様な教育推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海洋教育、自然体験教育の推進。 ・子どもの健全育成環境の充実。 	<p>⑤地域の特性を生かした定住促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもからお年寄りまで安心して暮らせるまちづくり。 ・田ノ浦地区における若い世代の定住促進。
<p>③今ある自然や景観を活用した整備の必要性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・別大国道に津波避難所を兼ねた立体型駐車場の整備。 ・海の魅力を活かした誘客。 	<p>⑥スポーツ振興による地域の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駄原総合運動公園を活用したスポーツ文化の振興。 ・西部スポーツ交流ひろばの芝生化。

SWOT分析

【大分西部地域のSWOT分析(弱み・脅威)】

弱み Weakness	
<p>①商業の停滞による買物弱者問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の買い物が不便(バスの便数が少ない)である。 ・商業施設が少ない(減少している)と感じる。 ・地域からスーパーが消え、買い物難民になりそう。 	<p>③街路樹等植栽の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・街路樹が少なく、きれいでない。 ・旧別大国道の桜並木の整備が十分でない。 ・鉄道残存敷の整備として樹木を入れてほしい。
<p>②歩道・道路の整備及び交通機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道が狭くシルバーカーやベビーカーの利用が困難である。 ・道路が狭く、車の離合が困難である。 ・バス停までが遠く、買物に不便である。 ・バス路線が不足している。 ・朝の交通量が多い。 ・高崎山、田ノ浦ビーチをつなぐ交通体系の整備が必要。 ・高崎山に駅があると観光振興につながる。 ・西大分港と大分 IC が近く、通学路に大型トラックが頻繁に通る危険である。 	<p>④子育て環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの遊ぶ姿が少なくなった。 ・共働き家庭の増加により子どもだけの時間も増加。 ・地域内にこどもルームがない。 <p>⑤高低差のある地形による生活環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・傾斜地に住宅が多く、高齢者の外出の妨げになっている。
<p>⑥深刻な担い手不足や鳥獣被害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農家の担い手がいない。 ・サル、イノシシの被害対策が難しい。 	
脅威 Threat	
<p>①地域コミュニティの希薄化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プライバシーや個人情報等が地域の連帯に、ブレーキをかけている。 ・不審者情報が多い。 ・マンション住民の地域行事の参加が少ない。 ・高齢化により行事の参加者が減少している。 ・自治会や子ども会、青年会の加入が年々減少している。 <p>②少子高齢化問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢化による地域活性化の不足。 ・少子化問題が一番。 ・人と人とのつながりの希薄化の要因になっている。 ・少子高齢化の加速。高齢者の行動範囲が狭くなっている。 	<p>③自然災害に対する備えの欠如</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南海トラフを震源とする巨大地震が予測されている。 ・自然災害への備えの不足、意識の希薄化。 <p>④市街化調整区域による制限</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市街化調整区域のため住宅が建てられない。

第4章 地域の分析

2 SWOT分析による地域の整理図(地図)

前段で検証しました本地域のSWOT分析を地図で整理すると以下のとおりになります。



第5章 地域のあるべき姿（将来像）

第4章の「地域の分析」により、大分西部地域の将来に向けた魅力や課題の整理を行いました。今後、地域のさらなる発展のために、地域のあるべき姿（将来像）を設定し、魅力の向上や課題解決に向けた取組を検討していきます。

1 地域の将来に向けた魅力・課題

大分西部地域が誇る魅力

1. 地域の絆が深く、地域活動が盛んである

⇒5校区の自治委員・自治会のつながりが強く、各地域の行事において連携を図っています。また、西部地区総合安全対策推進協議会や住吉川浄化対策推進協議会など、地域主体の取組を積極的に行っています。

2. 観光資源が豊富な大分市の観光拠点

⇒高崎山自然動物園や大分マリンパレス水族館「うみたまご」、田ノ浦ビーチなど、市内外から多くの観光客が訪れます。また、南蛮貿易碑や福田平八郎生家跡など、歴史的な魅力も有しています。

3. 教育・スポーツ施設が集積した文教地区

⇒公立の幼稚園、小・中学校に加え、大分大学教育学部附属の幼稚園及び小・中学校、県立図書館、市営駄原総合運動公園などが立地するなど文教地区としての役割を担っています。

大分西部地域が抱える課題

1. 地域コミュニティの希薄化

⇒本地域においても今後、少子高齢化や人口減少が予測されています。また、核家族の世帯やマンションの増加等により、地域コミュニティの希薄化が懸念されています。

2. 南海トラフを震源とする巨大地震、津波への備え

⇒南海トラフを震源とする巨大地震の発生率が80%という高い確率で想定され、これに伴う津波被害が懸念されています。別府湾に面している本地域では、この災害に対する備えが喫緊の課題となります。

3. 狭隘道路や傾斜面地域における交通問題

⇒本地域には狭隘道路や急な傾斜面の箇所が多く、また、公共交通が整備されていないため、高齢者等が外出する際に不便な状況です。

自然と文化が共存 心躍る西部タウン

将来像への思い

大分西部地域が誇る高崎山や田ノ浦ビーチなどの豊かな自然と、地域に脈々と受け継がれる歴史・文化の共存を図ることで、本地域の魅力がさらに高まり、地域内外の誰もが心躍るような地域にしていきたいという思いで将来像を設定しました。



第6章 将来像の実現に向けた取組

1 これからのまちづくりに向けた市長への提言

これまで、地域まちづくりビジョンの策定に向けて、改めて自らの住む地域を見直すとともに、今後、地域と行政が一緒になってどのような取組を進めていくべきか議論を深めてきました。

今後、わたしたち市民が描く地域の将来像の実現に向けて、これからのまちづくりに重要となる取組について提言します。

提言1：暮らし/住み続けたいくなる地域、住んでみたい地域づくり

地域住民がいつまでも同じ地域に住み続けたいくなるような地域、そして、他地域の人が住んでみたいと思えるような地域づくりが望まれる。また、文教地区でもある本地域の特色を生かして、子どもが健やかに育つ環境づくりが望まれる。

提言2：観光/地域資源を最大限に生かした観光振興

潜在的な観光需要が高い本地域の魅力を最大限に引き出すため、既存の観光施設や歴史・文化、地元産品などの地域資源を一体的に堪能できる仕組みを創設し、市内外からの誘客を図ることが望まれる。

提言3：教育・スポーツ/豊かな自然環境での教育、スポーツ交流の推進

高崎山や田ノ浦ビーチなどの豊かな自然環境を生かした、海洋教育や自然体験教育の推進が望まれる。また、市営駄原総合運動公園や西部スポーツ交流ひろばなどのスポーツ施設が地域のスポーツ交流拠点として活用されることが望まれる。

提言4：防災/巨大地震の発生に伴う津波への備え

南海トラフを震源とする巨大地震と津波への備えとして、自助はもちろん、地域における共助や国・県・市における公助が重要であり、特に、別府湾に面している観光施設や別大国道の利用者の安全確保が望まれる。

第6章 将来像の実現に向けた取組

2 提言に基づく提案事業の一覧

将来像の実現に向けて、前段で4つの項目について提言しました。また、その提言に基づく具体的な提案事業についても検討を行い、下記のとおりまとめました。

No.	提言	事業名	内容
①	暮らし	顔の見えるまちづくり事業	西部地区総合安全対策推進協議会や住吉川浄化対策推進協議会など、日頃から「顔の見える」取組を地域主体となっていくことで、防災訓練や各行事などにおいて連携・協力できる体制を整える。
②	暮らし	子育て応援事業	放課後児童の居場所づくりとして、児童館を設置するほか、地域における子育て応援体制の充実や子どもの遊び場の確保を図る。
③	暮らし	老人会を元気にする事業	まだまだ元気な高齢者に対して、老人会への加入を促進し、地域の様々な取組に参画してもらうことで、老人会、そして地域の活性化につなげる。
④	暮らし	買い物弱者支援事業	狹隘道路や傾斜面が多い地域において、高齢者等の買い物弱者の支援策として、乗合タクシーや移動販売等を実施する。
⑤	暮らし	郊外型の住宅地開発事業	子育て世代等の呼び込みを図るため、白木、田ノ浦地区等において、空き家の有効活用や市街化調整区域の見直しを検討することで、海が見える抜群のロケーションを生かした住宅地開発につなげる。
⑥	暮らし	若年層の雇用活性化事業	少子高齢化や人口減少が進む中、地域で育った若者が流出しないよう、本地域の魅力でもある観光産業などによる雇用の創出を図る。
⑦	暮らし	鉄道残存敷の利活用事業	日豊本線の鉄道残存敷の利活用として、地域住民が利用できる憩いの場とするともに、観光拠点とJR大分駅を結ぶ移動空間とする。

大分西部地域まちづくりビジョン 提案事業

No.	提言	事業名	内容
⑧	観光	柞原八幡宮を核とした 歴史観光PR事業	柞原八幡宮などの神社仏閣がもつ魅力を観光資源として発信することで、ラグビーワールドカップなどの国際大会で訪れた外国人観光客の誘客を図る。
⑨	観光	西大分駅商店街再生事業	地域、商店街、行政等がアイデアを出し合い、今の古い街並みを生かしながら、西大分駅が観光の始発点となるよう整備する。
⑩	観光	西大分を拠点とした 学びと遊びの創造事業	西大分を巡るウォーキングやサイクリングなどのイベント開催や、海の魅力を生かした体験型観光のメニューをつくる。また、田ノ浦地区に市内外からの誘客を図れるような魅力的な施設をつくる。
⑪	観光	外国船を呼び込む港づくり	かんたん港園付近に外国船を呼び込むことで、観光の新たな目玉とするとともに、周辺の観光施設との相乗効果を図る。
⑫	スポーツ・ 教育	心豊かな子どもを育てる 自然・海洋教育事業	田ノ浦ビーチや祓川などの豊かな自然環境を生かした環境教育や海洋教育を推進することで、青少年の健全育成を図るとともに、次世代にも今の素晴らしい環境を引き継いでもらう。
⑬	スポーツ・ 教育	スポーツ交流事業	市営駄原総合運動公園の整備に続き、西部スポーツ交流ひろばについても、地域のスポーツ交流拠点となるよう整備する。
⑭	防災	別大国道に防災拠点となる 立体駐車場整備事業	別府湾に面している観光施設や別大国道の利用者の津波避難場所として、立体駐車場を設置する。平常時は、観光客の駐車場としての利用や展望所としての活用を図る。
⑮	共通	行政と話す場づくり事業	地域ビジョン会議のような、地域と行政とが話し合う場をつくることで、地域の意向や民間事業者のノウハウ等をまちづくりに活かしてもらう。

第6章 将来像の実現に向けた取組

3 提案事業の役割分担

前段の提案事業について、それぞれ「私ができること」「地域でできること」「行政に望むこと」の視点で議論を行い、以下のとおり整理しました。

① 暮らし		
顔の見えるまちづくり事業		
私ができること	地域でできること	行政に望むこと
自治会の行事や登下校時のあいさつ運動・見守り活動に参加する。	地域の各関係団体が連携し、さまざまな行事等への参加を呼び掛ける。	地域に住む行政職員も積極的に行事等に参加し、地域に根付いてほしい。

② 暮らし		
子育て応援事業		
私ができること	地域でできること	行政に望むこと
子育てイベントや登下校時のあいさつ運動、見守り活動に積極的に参加する。	親子、地域が参加できるイベントの企画立案を行う。地域で登下校時の見守り活動・あいさつ運動を行う。	市民ボランティアが安心して参画できるよう、行政の支援が必要。また、放課後児童が集まれる児童館を設置してほしい。

③ 暮らし		
老人会を元気にする事業		
私ができること	地域でできること	行政に望むこと
老人会に加入し、各種行事に参加する。	元気な高齢者の方に、地域の行事の運営等に参画してもらう。	高齢者と子どもたちが交流できるような場がほしい。

④ 暮らし		
買い物弱者支援事業		
私ができること	地域でできること	行政に望むこと
継続的な支援につながるよう、積極的に利用する。	乗合タクシーの運営や、商店の移動販売などの誘致を行う。	運営費等の費用を一部負担してほしい。

⑤ 暮らし		
郊外型の住宅地開発事業		
私ができること	地域でできること	行政に望むこと
地域の空き家・空き地等を確認し、情報提供する。	地域の空き家・空き地等を地域で情報収集し、まとめる。	市街化調整区域の見直しを検討してほしい。

第6章 将来像の実現に向けた取組

⑥ 暮らし		
若年層の雇用活性化事業		
私ができること	地域でできること	行政に望むこと
地域産業が主催するイベント等に積極的に参加する。	若者が地域に根付けよう、地域産業について情報提供する。	パンフレット等で地域産業をPRしてほしい。

⑦ 暮らし		
鉄道残存敷の利活用事業		
私ができること	地域でできること	行政に望むこと
残存敷について関心を持ち、利活用のアイデアを出す。	地域で花を植えるなど、憩いの場にする。	利活用の計画策定にあたり、住民の意見を反映してほしい。

⑧ 観光		
柞原八幡宮を核とした歴史観光PR事業		
私ができること	地域でできること	行政に望むこと
柞原八幡宮の歴史・文化を学んだ上で、各種行事に参加する。	各種団体と連携した広報活動を行うことで、参拝客を増やし、柞原八幡宮の魅力をもPRする。	柞原八幡宮の歴史・文化を全国に広くPRし、観光客の誘客を図ってほしい。

⑨ 観光		
西大分駅商店街再生事業		
私ができること	地域でできること	行政に望むこと
住民も商店街との話し合いの場に参加し、活性化のアイデアを出す。	商店街の皆さんとの話し合いの場を設け、商店街再生の企画や方向性を探る。	行政にも話し合いに参加してもらい、専門的な意見や他都市の事例などを参考にしたい。

⑩ 観光		
西大分を拠点とした学びと遊びの創造事業		
私ができること	地域でできること	行政に望むこと
まずは、地域の魅力を住民が再認識し、イベントの開催時は積極的に参加する。	イベントの企画・運営への参画や広報等における協力を図る。	地域の魅力をつなぐルートの造成やイベントの企画・実施をしてほしい。

第6章 将来像の実現に向けた取組

⑪ 観光		
外国船を呼び込む港づくり		
私ができること	地域でできること	行政に望むこと
外国船の誘致に向けた機運の醸成を図る。	外国船の誘致に向けた機運の醸成を図るとともに、イベント等のアイデアを出す。	外国船を誘致できた際に、新たな魅力スポットとしてPRしてほしい。

⑫ 教育・スポーツ		
心豊かな子どもを育てる自然・海洋教育事業		
私ができること	地域でできること	行政に望むこと
自然体験や防災などの各種教育を指導するほか、指導者の人材育成を行う。	地域のPTAや老人会などの関係団体と連携し、海版の総合型地域スポーツクラブを構築する。	教育現場への導入や豊かな自然環境を次の世代に引き継いでいくために竹炭窯などの必要な施設整備費の予算化、指導員普及のための仕組みづくりをしてほしい。

⑬ 教育・スポーツ		
スポーツ交流事業		
私ができること	地域でできること	行政に望むこと
スポーツイベントに参加し、地域の交流を深める。	地域のスポーツ大会などを実施することで、地域のスポーツ交流拠点として活用する。	駄原総合運動公園に続き、西部スポーツ交流ひろばも芝生化などの整備をしてほしい。

⑭ 防災		
別大国道に防災拠点となる立体駐車場整備事業		
私ができること	地域でできること	行政に望むこと
別大国道における津波の避難場所の必要性を認識する。	災害時に、観光施設、地域、行政等が連携をとれる体制を整える。	市・県などに整備にかかるイニシャルコストを負担してほしい。

第6章 将来像の実現に向けた取組

⑮ 共通		
行政と話す場づくり事業		
私ができること	地域でできること	行政に望むこと
地域の発展につながるような建設的な意見を考える。	地域の代表として、地域の発展につながるような建設的な意見を行政に伝える。	地域ビジョン会議のような、行政と対話できる場を設定してほしい。

第6章 将来像の実現に向けた取組

4 提案事業の整理図(地図)

提案事業について、地図で整理すると以下のとおりになります。



地域全体に関する事業

- 顔の見えるまちづくり事業
- 子育て応援事業
- 老人会を元気にする事業
- 若年層の雇用活性化事業
- 行政と話す場づくり事業



大分西部地域まちづくりビジョン

資料編

資料編

1 策定経過

年・月	取組内容
平成29年 5月14日	大分西部地域ビジョン会議 準備会議 大分西部地域ビジョン会議委員の委嘱
6月 6日	大分西部地域ビジョン会議 第1回会議 大分西部地域ビジョン会議顧問の参画
8月 2日	大分西部地域ビジョン会議 第2回会議
11月 2日	大分西部地域ビジョン会議 第3回会議
平成30年 2月13日	大分西部地域ビジョン会議 第4回会議
5月 8日	大分西部地域ビジョン会議 第5回会議
7月 2日	大分市地域まちづくりビジョン報告会(市長へ提言)

2 大分西部地域ビジョン会議委員及び顧問、事務局名簿

大分西部地域ビジョン会議 委員15名

※敬称略

役職	氏名	所属等
会長	荒金 一義	春日校区会長
副会長	安東 久幸	大分西部公民館運営審議会 委員長
	芳井 英臣	大道校区会長
	上田 精司	西の台校区会長
	加藤 譲二	八幡校区会長
	倉掛 弘毅	神崎校区会長
	松崎 誠治	大分市老人クラブ連合会 会長
	御幡 秀則	西部地区PTA協議会 会長
	衛藤 久澄	王子中学校 校長
	宮崎 さち子	春日校区民生委員児童委員協議会 会長
	加藤 勝幸	八幡地区社会福祉協議会 会長
	白石 成裕	株式会社 テイクファイブ 代表取締役 社長
	宮崎 香織	西の台小学校 学校評議員
	田中 平	大分マリンパレス水族館「うみたまご」 館長
	尾田 智史	NPO法人大分ライフセービングクラブ 理事長



大分西部地域ビジョン会議 顧問6名

※敬称略

役職	氏名	所属等
	福間 健治	大分市議会議員
	安部 剛祐	大分市議会議員
	宮邊 和弘	大分市議会議員
	松下 清高	大分市議会議員
	橋本 敬広	大分市議会議員
	衛藤 延洋	大分市議会議員

大分西部地域ビジョン会議 事務局10名

	氏名	所属等
事務局長	玉野井 雄二	商工労働観光部 審議監
事務局次長	小野 研一	市民部 大分西部公民館 館長
	足立 秀雄	市民部 市民協働推進課 参事
	尾方 哲信 (山村 秀臣)	市民部 大分西部公民館 主査 (市民部 大分西部公民館 主幹)
	鹿嶋 秀和 (三浦 望)	都市計画部 まちなみ整備課 専門員 (都市計画部 まちなみ整備課 専門員)
	堤 寛	土木建築部 住宅課 参事補
	中山 英人	商工労働観光部 商工労政課 参事補
	田中 香織	農林水産部 生産振興課 専門員
	永野 謙吾 (廣田 暁則)	企画部 企画課 政策監 (企画部 企画課 参事補)
	須浦 清隆	企画部 企画課 主任

(構成員の所属は選任時のもの)

3 大分市地域ビジョン会議設置要綱

(設置)

第1条 市民が思い描く地域の未来像であり、地域の特性を活かしたまちづくりの方向性についての市民の提言となる地域まちづくりビジョンを策定するため、地域ごとに地域ビジョン会議(以下「ビジョン会議」という。)を設置する。

(名称及び設置地域)

第2条 ビジョン会議の名称及び設置地域は、別表のとおりとする。

(所掌事項)

第3条 ビジョン会議は、次に掲げる事項を所掌する。

- (1)地域まちづくりビジョンの策定に関すること。
- (2)地域まちづくりビジョンの市長への報告に関すること。
- (3)その他地域まちづくりビジョンの策定に関し市長が必要と認める事項

(組織)

第4条 ビジョン会議の委員は、25人以内とし、次に掲げる者のうちから市長が参画依頼する。

- (1)各種団体の代表者
- (2)校区会長
- (3)学識経験を有する者
- (4)その他市長が必要と認める者

(参画依頼の期間)

第5条 参画依頼の期間は、参画依頼の日から第3条に掲げる所掌事項が終了する日までとする。

(会長及び副会長)

第6条 ビジョン会議に会長及び副会長1人を置き、委員の互選により選出する。

- 2 会長は、ビジョン会議を代表し、会務を総理する。
- 3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第7条 ビジョン会議の会議(以下「会議」という。)は、会長が招集し、会長がその議長となる。

- 2 会議は、委員の過半数が出席しなければ、これを開くことができない。

資料編

3 会長は、必要があると認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

4 会議は、原則公開とする。ただし、会長が必要と認める場合は、会議に諮って、これを公開しないことができる。

(部会)

第8条 ビジョン会議は、地域内における特定の地区及び事項について調査、研究等を行うための部会を設置することができる。

2 部会は、会長の指名した委員を部会員として組織する。

3 部会に部会長を置き、会長の指名する委員をもって充てる。

(顧問)

第9条 ビジョン会議ごとに顧問を置くことができる。

2 顧問は、市議会議員とする。

3 顧問は、ビジョン会議からの要請に基づき、市長が参画を依頼する。

4 顧問は、ビジョン会議に対し助言を行うことができる。

(報償金等)

第10条 委員に対する報償金等は、予算の範囲内で、市長が決定し、これを支払うことができる。

(事務局)

第11条 ビジョン会議の庶務を処理するため、ビジョン会議ごとに事務局を置く。

2 事務局の運営に関し必要な事項は、市長が別に定める。

(その他)

第12条 この要綱に定めるもののほか、ビジョン会議の運営について必要な事項は、会長がビジョン会議に諮って定める。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成29年4月17日から施行する。

(この要綱の失効)

2 この要綱は、第3条に掲げる所掌事項が終了する日限り、その効力を失う。

別表(第2条関係)

名 称	設置地域
大分中央地域ビジョン会議	大分中央公民館の所管区域
大分西部地域ビジョン会議	大分西部公民館の所管区域
大分南部地域ビジョン会議	大分南部公民館の所管区域
南大分地域ビジョン会議	南大分公民館の所管区域
大分東部地域ビジョン会議	大分東部公民館の所管区域
鶴崎地域ビジョン会議	鶴崎支所の所管区域
大南地域ビジョン会議	大南支所の所管区域
植田地域ビジョン会議	植田支所の所管区域
大在地域ビジョン会議	大在支所の所管区域
坂ノ市地域ビジョン会議	坂ノ市支所の所管区域
佐賀関地域ビジョン会議	佐賀関支所の所管区域
野津原地域ビジョン会議	野津原支所の所管区域
明野地域ビジョン会議	明野支所の所管区域

(備考) 公民館の所管区域のうち、支所の所管区域は除くものとする。



大分西部地域まちづくりビジョン

大分西部地域ビジョン会議